

2024 年第 1 回 IEEE 東京支部理事会 議事録 (案)

日 時：2024 年 3 月 14 日 (木) 12:00～14:00

場 所：機械振興会館 6-67 会議室

出席者：相澤 Chair、佐田 Vice Chair、奥村 Secretary、樋口 Treasurer

<以下 順不同>

添谷 COC Chair、森田 FNC Chair、賀屋 MD Chair、中村 NC Chair、松尾 TPC Chair、植村 SAC Chair、廣畑 PC Chair、河東 HC Chair、太田 LMAG Chair、石垣 YP Chair、Kawamoto WIE Chair、重松 Past Secretary、西宮 SIGHT Chair、野添 IEEE JO Director

事務局：加藤事務局員、福岡事務局員

幹事会社：金、木村

議題：

1. 前回理事会議事録の確認【審議】 (資料 1)
2. Japan Council 理事会(2023 年第 3 回)報告 (資料 2)
3. 2023 年活動報告および決算報告、監査報告 (資料 3)
4. 2024 年活動計画および 2024 年予算 (資料 4)
5. 2024 年中間会計報告 (資料 5)
6. 2024 年総会資料【審議】 (資料 6)
7. 委員会活動報告
 - ・ Chapter Operations Committee (資料 7-1)
 - ・ Fellow Nominations Committee (資料 7-2)
 - ・ Membership Development Committee (資料 7-3)
 - ・ Technical Program Committee (資料 7-4)
 - ・ Publications Committee (資料 7-5)
 - ・ Student Activities Committee (資料 7-6)
 - ・ History Committee (資料 7-7)
 - ・ Nominations Committee (資料無し)
8. Affinity Group 2023 年活動報告
 - ・ Life Members Affinity Group (資料 8-1)
 - ・ Young Professionals Affinity Group (資料 8-2)
 - ・ Women in Engineering (資料 8-3)
9. その他
 - ・ IEW (Industry Engagement Workshop: 旧 MAW) 報告 (資料 9-1)
 - ・ R10 HTC2025 招致報告 (資料 9-2)
 - ・ VIC2025 招致報告 (JO 活動報告とともに) (資料 9-3)

- ・ R10 SYWL2024 準備状況報告 (資料 9-4)
- ・ R10 Meeting 報告 (資料 9-5)
- ・ SIGHT 報告 (資料 9-6)
- ・ [参考] グレード別会員数の推移
- ・ [参考] Society 別会員数の推移

【議事】

0. IEEE 東京支部相澤 Chair より開会の挨拶

相澤 Chair より開会の挨拶が述べられた。

1. 前回理事会議事録の確認 【審議→承認】 (資料 1)

奥村 Secretary より前回理事会の議事録について説明があり、審議・承認された。

2. Japan Council 理事会(2023 年第 3 回)報告 (資料 2)

奥村 Secretary より、Japan Council 理事会(2023 年第 3 回)につき、報告があった。
常設委員会の活動としては SB2024 を SYWL の前日に行う。各委員会から予算提案があり、承認された。AC(Award Committee)についてはノミネーションを増やすために、候補者のリストアップに力を入れていく。IEW(Industry Engagement Workshop. 旧 MAW)は前回の信州で 9 支部が終了した。次回は東京支部に戻ることで、SYWL と同時開催でプログラムを進めている。LRSC では長期的に国際会議の日本開催が増えているが、HTC や VIC も東京での開催が決定した。

3. 2023 年活動報告および決算報告、監査報告 (資料 3)

奥村 Secretary より活動報告があった。

2023 年は東芝以外にもサイバーエージェントや IBM で理事会を開催した。Milestone は 1 件あり、TRON が受賞。

樋口 Treasurer より決算報告、監査報告があった。

2023 年の収入について、第 4 回の理事会での見込みから変化はない。予算より増えたのは為替で円安が進んだためである。支出について、事務局費 3 で変化があり、ドル建て貯金の為替の差益を計上した。これにより、支出は当初の予定より少なく、その結果 22 年度繰越金より次年度への繰越金が少し増えた。監査関連資料は 2 月に監査を受け、問題なく終了している。

4. 2024 年活動計画および 2024 年予算 (資料 4)

奥村 Secretary より活動計画について報告があった。

2024 年は総会を 1 回と理事会を 4 回開催する予定で、6/14、9/13、12/10 中 2 回は他企業で開催予定である。旧 MAW が IEW に名称を変更。SYWL の東京開催が決定しており、全て英語で開催する。関係地区との関係で、ボストンとソウルがあったが、ボストンとの連携はやっていないため、ソウル支部との関係を強化することへ変更。

樋口 Treasurer より予算について報告があった。

前回理事会で修正が入ったため、メールで審議し承認いただいた。変更点は繰越金の確定。収入は相場が影響するが、135 円で予算を立てている。2023 年までとの違いは、これまで各 OU の Fund は包含して記入する形だったが、Fund は各 OU まとめて「収入」として計上している。各 OU は 2023 年より増えているように見えるが、2023 年はもらう Fund の分を引いた額を記載していたため、今回は上にある Fund にある差額が 2023 年の支出額相当の 24 年度版となる。収入より支出が多く赤字になる予定で、繰越金で賄う。

5. 2024 年中間会計報告

(資料 5)

樋口 Treasurer より報告があった。

支出は今回の理事会、総会での会議費、事務局費（月割額）を計上した。

事務局と相談し、効率化とリアルタイムで把握可能で見通しの良い資産運用を考えたく、予算計画フォームを改善した（資料 5-2）。今後は活動実施後に「年間支出計画記入フォーマット」、Expense Report にも同じように入力し、都度、事務局に提出してほしい。提出した資料は事務局で確認し、問題なければ支払いし、フォーマットは提出元に戻す。また、各 OU でも予算管理し、事務局と Treasurer でも情報共有しながら管理していく。

6. 2024 年総会資料【審議】

奥村 Secretary より、総会資料について審議、承認された。

7. 常設委員会 報告

(資料 7-1)

・ Chapter Operations Committee

添谷 COC Chair より配布資料に沿って報告された。

前回からの差分は TCS1 件、FCS1 件の承認答申を行った点である。FCS の方は審議中だったが、3/8 に承認答申があり、東京支部に報告している。次に JC COC から Chapter 活動申請審査を引き継ぎ、1 月より東京支部直轄の Chapter 活動費審査業務を行っている。これまで 2 回開催。Award を 5 件、講演会 1 件が承認された。なお、Award 申請に関し、事前に Award 申請を JC で承認し、その後東京支部 COC が審査するが、そこで内容に不整合があり、継続審議中が 1 件ある。

・ Fellow Nominations Committee

(資料 7-2)

森田 FNC Chair より配布資料に沿って報告された。

JC Fellow Elevation Support Ad Hoc Committee にリエゾンメンバーとして参加し、JC と協力した Fellow 増強施策(Fellow 申請者向けウェビナー、有力候補者への個別コンタクト)について検討した。2024 年の Fellow 昇格者については、日本の昇格者は 11 名(去年は 15 名)、東京支部の昇格者は 6 名(去年は 9 名)であった。なお、資料最後のグラフは Fellow 昇格者の世界と日本の違いを表している。日本は少しずつ増えていたが、今回は減った。他学会への働きかけの結果が見えてくるのが次回からなので、結果が出てきたら報告する。

質疑応答では、Society ごとの Fellow の数についての質問があり、森田 FNC Chair から、確認し共有するとの回答があった。

・ **Membership Development Committee** (資料 7-3)

賀屋 MDC Chair より配布資料に沿って報告された。

会員間の交流を促進し、Senior Member 昇格を支援いただける方を増やすための初の試みとして、23 年度に Senior Member に昇格された方に対して、東京支部総会や新 Fellow 表彰式、新 Fellow を囲む懇親会の案内をメールで送付した(従来は代表者 1 名のみ)。その結果、本日 7 名の方にご参加頂く予定である。今月の会員数は 7,902 人で、前年同月比で 259 人増、前月比で 99 人増。Senior Member の昇格者数は 2023 年が 34 名。

・ **Technical Program Committee** (資料 7-4)

松尾 TPC Chair より配布資料に沿って報告された。

前回からの更新部分は以下。12 月末に日立の神鳥氏の講演を開催し、会員や非会員含めて 99 名の方にご参加いただいた。2024 年はハイブリッド開催が続いているが、オンライン開催とハイブリッド開催を半々で進める。本日第 1 回の講演会として「オートメーションの科学」をテーマに、システムイノベーションセンターの副センター長である木村氏にご講演頂く予定。第 2 回を 4~5 月、その後共催含めて 10 回企画したい。

・ **Publications Committee** (資料 7-6)

廣畑 PC Chair より、配布資料に沿って報告された。

前回からの差分としては、1 月、2 月に若手研究者間の交流を目的として TOWERS の 20 回目の開催内容や、WIE のイベント開催内容について記事を寄稿頂いた点。また、3 月末、4 月への東京 Bulletin に向けて YP から記事を寄稿頂いている。これから、TPC の第 10 回の講演会内容についても寄稿頂く予定。その後は夏の SYWL Congress もタイムリーに掲載したい。また、JC の Fellow ページを更新した。

・ **Student Activities Committee** (資料 7-7)

植村 SAC Chair より配布資料に沿って報告された。

千葉商科大 SB の立ち上げを支援した。また、TOWERS について東京 Bulletin に寄稿した。引き続き、2024 年も SB の立ち上げ支援を進める。以前から指摘にある、SB から YP への Elevation につながるよう、他の Affinity グループとの連携も進める。R10 の SYWL に東京の SB から参加してほしい。また、WIE や JC SAC とイベントを共催し、12 月の千葉商科大学 SB 立ち上げイベントも共催した。4 月には札幌 WIE・各支部との共催で IEEE IDEA JAM2024 を開催予定。東京支部 SB から学生の参加希望があり、派遣支援をする。

・ **History Committee**

(資料 7-8)

河東 HC Chair より配布資料に沿って報告された。

前回からの差分、活動が活発で申請件数が多数ある。座席指定システム MARS JR は提案者の鈴木 Vice Chair が申請元の意見を聞きながら内諾を得た。TRON 電腦ハウスは長谷氏が本部の HC 委員になり、2 件目の申請をしている。長谷氏が Advocate、石川氏が Proposer。本件は TRON 側で進めているが、東京支部がスポンサーとなる。新たな取り組みとして、申請元の企業・大学ではなく、東京 HC が提案者として進める活動をしている。現在案件が増えてきて、白川 JC HC Chair だけでは対応が難しく、東京支部 HC にも対応が流れてきている。

質疑応答では、Milestone 案件の進捗状況の見える化についてコメントがあり、河東 HC Chair から、可能な範囲での対応を検討するとの回答があった。

・ **Nominations Committee**

(資料 8-8)

中村 NC Chair より報告された。

時期役員理事の手続きを進めている。前回今後の予定を連絡しているが、次期役員、常設委員会の Committee Chair の候補者について 5/17 までに事務局に連絡してほしい。また、Vice Chair、Secretary の締切は 11 月頃である。

8. Affinity Group 活動報告

・ **Life Members Affinity Group**

(資料 8-1)

太田 LMAG Chair より配布資料に沿って報告された。

2024 年の方針は従来どおり。R10 の場を借りて他のグループと交流する予定である。3 月まで役員会を開催しており、本日は総会を開催する予定。また、後ほど TPC 共催の講演会も開催する予定である。そして、新年に新しい Life Member 宛てに、活動報告、活動参加へのお誘いをメールで配信した。今年は過去最高人数、102 名の Life Member を迎えた。JC LMAG Coordinator の呼びかけで全 LMAG Chair のオンライン会議も開催し、SYWL Congress における日本 LMAG としての対応の仕方などを議論した。Senior Member への

勧誘についてもレターを発行。昨年は速攻で2名が昇格したが、今年はまだ決まっていない。

・ **Young Professionals Affinity Group** (資料 8-2)

石垣 YP Chair より配布資料に沿って報告された。

2023 年はオンライン勉強会・対面イベントなどによる多様な人材交流・学びの機会を創出した。また、SB との共催などによる学生との繋がりを強化した。2024 年はこの方針を継続しながら、YP 活動に参加していない若手 IEEE 会員へのアプローチ、国内・海外の YP との連携を行う予定。4 月以降の活動、日本の YP で共同開催している Japan YP Study Lab を東京で開催する予定で予算申請をしていたが、開催地は仙台となった。また、8 月に予定されている、R10 SYWL Congress に合わせて CLAP を併設開催することになった。

・ **Women in Engineering** (資料 8-3)

Kawamoto WIE Chair より配布資料に沿って報告された。

2023 年は東京・信越支部 WIE の会員が 66 名から 77 名に増えた。各種イベントで、WIE は男性も入会可能であること、Student、Life Member は年会費が無料であることを広めてきた。2023 年 12 月 2 日に主催イベントである WIE シンポジウム 2023 を青山学院 Gender 研究センターで開催した。参加者はオンサイト 35 名、オンライン 66 名。今後は、WIE 活動 Society 横断で広報をしていく。東京・信越 WIE 設立当初は信越メンバーが 1 名だったが、現在 5 名まで増えた。IEEE IDEA JAM2024 では札幌 WIE からは支援費が支給されるが、東京・信越からの参加者には今後 2 年にわたり旅費のサポートをする。学生の分は SAC にお願ひする。今後 Online Coffee Break を 3 回開催予定。

その他

9-1. **IEW (Industry Engagement Workshop: 旧 MAW) 報告** (資料 9-1)

奥村 Secretary より資料に沿って報告があった。

MAW の名称を IEW に変更した。R10 SYWL2024 と同じ会場で、8/31 の 9:30~15:00 に開催する予定。15:00 からは SYWL のポスター講演会があるため、ここにも参加し、SYWL との交流も図る。プログラム案としては、IEEE President の Tom 氏、東芝の佐田 Vice Chair、マンガプロジェクトで関係の深い大日本印刷に講演を依頼中。そして漫画翻訳のスタートアップ、Mantra CEO の石渡氏、水中ドローンベンチャー MizLinx の CEO 野城氏にも依頼をしている。R10 Industry 関連の人も検討中。すべて英語で進行される。会場費はかからないが、SYWL との連携のため、100~200 人規模のランチ・バンケットを想定し、予算立てをしている。スポンサーを募っている。参加費で徴収するやり方があるが、方針を検討中。

質疑応答では、IEW と SYWL のスケジュールが一部重なっていることについて質問があり、奥村 Secretary から、両方のスケジュールを確認し、IEW の開始時間の変更を検討する、と

の回答があった。

9-2. R10 HTC2025 招致報告

(資料 9-2)

西宮 SIGHT Chair より資料に沿って報告があった。

R10 HTC2025 の開催が正式に決定し、東京支部にて開催する。2023 年 6 月の理事会で方針等を報告し、2024 年 1 月に R10 より正式に採択通知を受けた。3/3 にクアラルンプールで開催された R10 Annual MTG において PR した。4 月からは運営委員会が本格的に始動する。R10 HTC 第 1 回が 2013 年に東北大学にて開催された経緯もあり、その頃のテーマも併せて、仙台支部との連携を検討中である。国連サミットが決定した SDGs の終了が 2030 年に設定されており、2025 年がその 5 年前に当たることから、現状どこまで達成したのか？ など、R10 レベルで議論できる場としたい。

9-3. VIC2025 招致報告 (JO 活動報告とともに)

(資料 9-3)

野添 IEEE JO Director より資料に沿って報告があった。

VIC は、IEEE 本部 VIC Summit & Owners の Committee が主催で毎年開催している。今回は東京、バンクーバー、ロンドンの 3 か所が入札し、3/11(火)に正式に東京開催が決定。開催場所候補として、現在一番可能性の高い場所は新高輪品川プリンスホテルである。今年 5 月にボストンで開催される VIC2024 で、東京開催決定についてアナウンスされる予定。IEEE 本体主催のイベントではあるが、プロモーション、スポンサーシップへのご協力をお願いしたい。海外から 100 名、国内 250 名以上の参加者を募りたいと思っている。北米・欧州以外の場所では初開催となることもあり、日本発のイベントとして盛り上げたい。JO としては、全体的に JC 各支部のイベント開始サポートに一層注力していきたい。

9-4. R10 SYWL2024 準備状況報告

(資料 9-4)

奥村 Secretary より資料に沿って報告があった。

原崎 JC Vice Chair がリーダーで準備を進めている。開催日時は 8/29~9/1。1 日目は Welcome レセプションで、2 日目は IEEE President Tom 氏の Keynote Speech があり、午後はブレイクアウトセッションとなる。3 日目は次期 IEEE President Kathleen 氏の Keynote Speech、SYWL ブレイクアウトセッション、SYWL ポスターセッション、そして Cultural Night を予定している。4 日目は Humanitarian Session があり、その後 Close。サテライトワークショップとして、IEW2024 が 8/31 にあり、8/29 に IEEE R10 YP Career Leadership Aid Program 2024、R10 Robotic Competition が 2 日目 (8/30) に開催される予定。重要な点として、Registration がオープンになった。4 月末は Early Bird Registration が締切となる。

質疑応答では、SYWL と IEW の参加費や参加者の判別方法について質問があり、奥村

Secretary から、判別方法について検討するとの回答があった。

9-5. IEEE R10 Annual Meeting 2024 参加報告

(資料 9-5)

奥村 Secretary より資料に沿って報告があった。

3/2~3/3 にマレーシア、クアラルンプールで開催され、参加者は 138 名 (予定数)。日本からは 17 名が参加した。次期 IEEE President Kathleen 氏の講演はじめ、多数の報告発表があった。会員数については R10 の伸び率が高い。なお、Region の再編を予定していることが共有され、R10 が分割される一方で、R1,R2 が一緒になる。日本関連で表彰は 3 件、広島、名古屋支部がリテンション賞、塩見関西支部 YP Chair が YP Outstanding Volunteer 賞を受賞。Industrial Engagement Committee 関連で企業のニーズを調査。その結果、企業が若手に求めている Technical Skill Development と Carrier Development を強化するため、IEEE では Training Webinar Workshop の開催をはじめた。

9-6. SIGHT

(資料 9-6)

【SIGHT 報告】

西宮 SIGHT Chair より資料に沿って報告があった。

SIGHT の雑費として会場の借用料、手続きに必要な印鑑作成費を追加申請したい。公式イベントが増えてきたこともあり、バナーもあると良いと思っている。6/30 にパシフィコ横浜で、IEEE WCCI主催の、AI や Computing 関連の IEEE Humanitarian Activities Workshop with AI Technologies という国際会議が開催されるが、その中で Workshop を開催する予定である。参加費形態について本部と交渉中。

グレード別会員数の推移・Society 別会員数の推移

奥村 Secretary から資料を見ながら説明があった。

MD からの報告もあったが、Graduated Member, Student Member の増加が著しい。全体的にも増加している。Society 別としては、Consumer Technology と Engineering in Medicine and Biology が増加している。